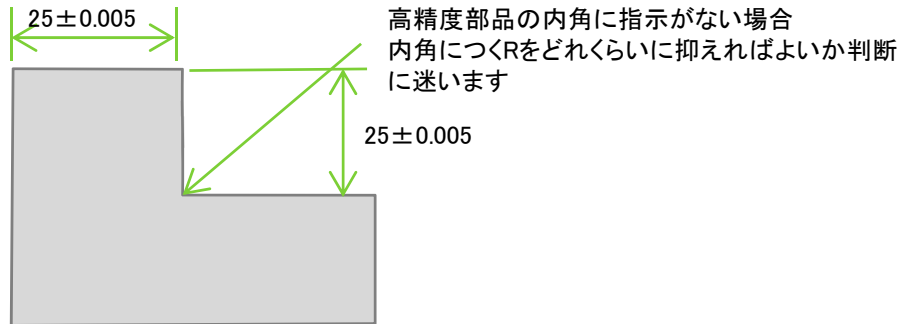


5、隅R指示によるコストダウン設計のポイント

Before

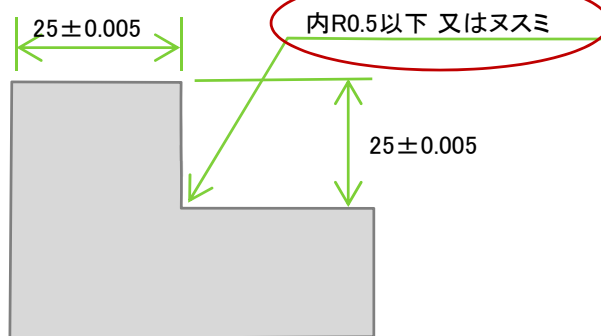
例)精度の高い加工品に内R指示がない場合



この様な場合、内Rを小さくするために砥石加工を追加すると時には大幅なコストアップにつながります

精密加工部品において、0.01mm精度以上の公差の厳しいザグリ穴や段付き部分の内Rに指示がない場合、加工者は角部の処理判断ができません。刃物加工を行う場合、最大で内R0.5mm程度つくこととなりますが、もっと小さなRしか設計上許容できない場合は、砥石での研削加工が必要となりコストアップの原因となります。

After



加工コストが高くなりがちな高精度部品でこそ、角部の処理等のコストダウン要素が重要となります。隅部については許容できるR指示を図面上で指示するか、Rを避けたい場合はヌスミ指示を入れることで無駄なコストアップを避けることが可能となります。

精密加工部品において、内Rに指示がない場合、加工者は隅部の処理判断が難しく、研削加工等の高精度の仕上げを行ってしまうことがあります。原則として隅部にはR指示かもしくはヌスミ指示を行うことで、無駄な加工費の上昇を抑え、コストダウンを実現することができます。